

第8回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日 時：平成14年10月17日（木） 午後7時00分～9時10分
2. 会 場：都庁第一庁舎5階 大会議場
3. 出席者：22名
 関係者（敬称略）
 武田 佳登（練馬）、宿澤 藤子（杉並）、濱本 勇三（武蔵野）、川瀬 春吉（三鷹）
 新 守一（三鷹）、米津 鐵雄（三鷹）、渡辺 俊明（調布）、石井 一成（狛江）
 橋本 妙子（狛江）、秋山 光男（世田谷）、江崎美枝子（世田谷）、栗林 勝彦（世田谷）
 地元自治体
 水上 英昭（練馬区部長）、倉田 征壽（杉並区部長）、伊藤 隆造（武蔵野市部長）
 柴田 直樹（三鷹市部長）、新谷 景一（調布市部長）、栗下 孝（世田谷区部長）
 国土交通省・東京都
 大寺 伸幸（関東地方整備局道路企画官）、伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）
 成田 隆一（東京都外かく環状道路担当部長）、宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）
4. 傍聴者：約60名
5. 概 要：

【首都圏の交通の現状と課題について】

（主な意見）

- ・これまで供用した環状道路では、並行する道路等の交通削減効果は認められない。

【必要性の有無（効果と影響）について】

（環境・生活に与える影響の資料について）

- ・環境・生活に与える影響の資料は、影響を議論するための題材であり、基礎となる図として提出した。
- ・この資料は時期尚早であり、速やかな取り下げを要求する。
- ・必要性の議論がなされていないのに具体的な資料を出すのはおかしい。たたき台を前提とした議論はしないと約束したはず。P I 外環協議会（仮称）準備会での確認内容の精神に相反し、強い怒りを感じる。
- ・事前配付資料についても抗議したが、今回それを無視してさらに詳しいものが出てきた。こういう行政主導のやり方はP I ではない。
- ・今日の協議会は流会にすべき。
- ・今回提出したI Cの影響図以上の資料（外環ありきの資料）は出すべきではない。
- ・外環を造った場合、造らない場合の影響を整理すべきであり、I Cの影響図があっても構わない。
- ・JCT・I Cは地元の最大の関心事であり、総合的に資料を出し、議論すべき。
- ・今後の議論のための一つの資料だと思う。撤回する必要はない。
- ・具体的な絵が欲しい。話し合っていくためには必要である。

（原点について）

- ・原点の論議とは何なのか時間をかけて論議してみてもどうか。
- ・昭和41年になぜこの位置に決まったのか、当時の資料を出すべき
- ・都市計画審議会での経緯を説明すべき。
- ・P I 外環協議会（仮称）設立に向けた確認内容では、必要性の有無から議論することになっており、必要な資料は用意したい。

【その他】

- ・傍聴者アンケートは、名前の記入無きものは集計に入れるべきでない。
- ・議論を深めていくために、グループに分けて討議することを提案する。
- ・次回は、11月5日（火）午後7時より、「環境・生活に与える影響」の資料の取り扱いも含めて引き続き討議することとなった。